

旭川出身のイラストレーター佐藤みきさんが 個展60回目の記念展を旭川などで開催



旭川出身で東京在住のイラストレーター・画家の佐藤みきさんが7月10日から14日、ギャラリーjin（旭川市1条通6）で60回目となる個展の記念展を開催した。

佐藤さんは1983年から約20年、週刊文春の林真理子の連載や、2010年から1年間、あさのあつこの新聞連載小説「かんかん橋を渡つたら」など全国紙・誌で挿絵を数多く担当。新聞連載時は、締切が迫つてくると2回分の原稿が新聞社から送られ、読んでその日の内に描いて送り返す日々だったという。『月の満ちかけ絵本』（あすなろ書房）などの著作本もあり、企業広告なども手掛けている。

個展は2001年に旭川の光画堂（当時）で開いて以降ほぼ毎年、旭川や東京で開き、10年からは札幌でも開催。海外で開かれるグループ展などにも参加している。

今展は挿絵の原画から最新作まで約60点を展示。和紙に油彩で描いたサンピラーは、画材のアルミ箔を細かく散りばめ、幻想的なきらめきを表現。このほかにも朝露が輝く草原や、自然の中にエゾリスなど北の動物たちをさりげなく配した作品が会場を彩り、やわらかで心がほどけるような色彩とタッチで来場者を和ませた。